

年 組 名前 :

松尾芭蕉が谷村（都留市）を訪れるきっかけは、江戸で起きた「天和の大戦」だった。深川に庵を構えていた芭蕉は、命からがら隅田川に飛び込んだ。谷村には藩の家老である高麗に招かれて滞在した。再び江戸に戻ると「野ざらし紀行」「おくのほそ道」の旅に出る。大火事と谷村滞在は芭蕉の作風に大きな影響を与えたといふ。同じく天和の大戦で人生が変わった女性がいた。名は「お七」。大火から逃れた先で出会った相手と恋仲になり、再会したい一心で皇室に放火刑に処された▼お七の生まれが、十干十二支でいう「ひのえうま」とされる。「ひのえうまの女性は気性が荒い」という差別に近い迷信が、ここから生まれた。残念ながら1966年には「産み控え」が起きて出生数はがくんと落ちた▼ことし再び巡ってきたひのえうま。ほかにも迷信がある。火事が多いのだといふ。▼9日午前1時、上野原市の大日出張所前から扇山を見上げた。テレビで見るよりもはるかに山は近く、炎は大きく、煙は高かつた。さほど長くいたわけではなかったのに、服が煙に燃されて帰りの車内はたまなかつた。付近に住んでいる方々は胸がざわめいていた。気が気ではないだろう▼昨年もちょうど今頃から春先まで、山林火災の話題が続いた。扇山の火が早く収まつてほしい。そして火の取り扱いにはくれぐれも注意して、「火事が多い」というわれを「迷信」にしたい。（前）

(2026年1月13日付 山梨日日新聞1面)

風林火山

問1 2026年は、十干十二支で60年に1度の「ひのえうま」に当たります。1966年には、どのような迷信から、どのような現象が起きましたか。

- ・迷信: _____
- ・現象: _____

問2 「ひのえうま」には、火事が多いともいわれています。あなたが日頃、火事が起きないように注意していることを書き出してください。

問3 松尾芭蕉の俳句です。中の句、下の句を選び、完成させてください。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ・古池や ⇒ ⇒ | ・夏草や ⇒ ⇒ |
| ・閑さや ⇒ ⇒ | ・五月雨を ⇒ ⇒ |
| ・荒海や ⇒ ⇒ | |

中の句 ⇒ ①あつめて早し ②蛙飛び込む ③佐渡によこたふ ④岩にしみいる ⑤兵どもが

下の句 ⇒ ⑥天河 ⑦蝉の声 ⑧水の音 ⑨夢の跡 ⑩最上川